

本年は、当研究所が昭和30年9月に「寒地建築研究所（寒研）」として設立されてから60年となる節目の年となります。この間、住宅の防寒性能や省エネルギーに関する技術向上に取り組み、本道の住宅における技術力は日本のトップランナーとして成長し続けています。

道総研では、次の五年間に向けた「第2期中期計画」が今年からスタートします。この計画策定に先立ち平成24年にまとめた「道総研における研究開発の基本構想」では、「食料安定供給と食関連産業の振興」、「エネルギーの安定供給」、「持続可能な地域社会の構築」の3つの課題について、道総研の総合力を発揮して重点的に取り組むこととしています。

これを受け、当研究所では、昨年より、地域や産業の特性に応じた再生可能エネルギーなど、北海道に広く分布するエネルギー資源を利活用するための技術開発に向けた研究に着手しています。また、本年からは、人口減少・高齢社会に対応した安全・快適な生活環境の実現、災害に強く安全に暮らせる持続可能な地域づくりに向けた戦略研究がスタートします。

新たなステージへと進む平成27年は、より一層地域のニーズを的確に捉え、将来にわたる持続可能な地域社会の構築に向けて、安全で快適な建築・住まい・まちづくりに関する研究開発に取り組み、これからも北海道という地域に根差した機関となることを目指していきます。

最後になりますが、新しい年が皆様方にとりまして、希望に満ちた発展の年になりますことを心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

建築研究本部長 兼
北方建築総合研究所長 石塚 弘

=====
イベントのお知らせ
=====

■【建築・住宅セミナーに参加します】

（一財）北海道建築指導センターが開催する、「平成26年度 建築・住宅セミナー」に、北総研研究員が講師として参加します。

「北海道の『新たな住まい』を考える」をテーマに3人の研究員がさまざまな視点から講演します。

受講料は無料ですので、興味のある方は是非ご参加ください。

日 時：平成27年1月23日（金）13：30～15：30

場 所：ポールスター札幌 4階 ライラック
札幌市中央区北4条西6丁目

詳しい内容及び参加申込方法については、（一財）北海道建築指導センターのホームページをご覧ください。

(企画課 酒井)

■【第3回 道総研オープンフォーラムを開催します】

道総研では、循環型社会の推進に資することを目的として、平成26年度で終了する循環資源利用促進研究開発基金事業の成果発表を行います。

日 時：平成27年2月10日（火）10：00～17：00

場 所：ホテル札幌ガーデンパレス 2階
札幌市中央区北1条西6丁目

当日は、成果発表のほか基調講演とパネルディスカッションも行いますので、皆様のお越しをお待ちしています。

詳しい内容及び参加申込方法については、道総研ホームページをご覧ください。
<http://www.hro.or.jp/event/lts/>

(企画課 酒井)

=====
ひとことエッセイ 「旭川で過ごした9カ月間を振り返って」
=====

「旭川は、夏がエアコンを手放せないほど暑く、冬が外出できないほど雪が多い。」と言われ、新入社員として北総研に配属した昨年4月、私は、仕事以上に、過酷な環境での生活が始まるという不安な気持ちがありました。

旭川で過ごした9ヶ月、私がこれまで住んでいた登別や室蘭と比べると、真夏日や氷点下10度を下回った日が多いことが印象的でした。一方、夏は湿度が高くないため耐えられない程の暑さを感じず、冬は風が弱いため室蘭（年間を通して風が強い）よりも体感的に寒いとは感じませんでした。（個人差があります。）また、交通の面では、しっかりと除雪が行われており、わだちが無いことに驚きました。冬期の建物内も寒いとは感じたことが無く、改めて北海道の住宅の断熱性能の高さを実感しました。

先日、地元の友達から「気候の変動が激しい旭川で生活するのは辛いのではないか？」と質問されました。これに対して私は、「旭川は、登別や室蘭と比べて気候の変化は大きいですが辛いと感じたことが無く、住宅の温湿度の環境も良く交通の不便も無く、快適な生活を送れている。」と自信を持って答えました。

「他の土地で生活することで、初めて自分の地域の気候や土地の特徴がわかる」と多くの人達から聞いていましたが、今回初めてこの言葉の意味を理解することができました。地域の特性を理解することが、建築を考える上で最上位に必要なことだと改めて感じました。今後、道内の地域の気候や土地の違いを理解し、これまで以上に「北海道が将来目指す地域や住宅」について考えていきたいと思えます。

(構法材料G 中村 暢)

=====
研究紹介「建設混合廃棄物のリサイクル推進に関する実態調査」
=====

建設混合廃棄物は、年間8万3千トン発生しているうち、6万2千トンが埋立処分されており、技術的な課題などによりリサイクル量が少ない廃棄物として知事が指定する産業廃棄物の1つに挙げられています。

北総研では、工業試験場、環境科学研究センターと共に、北海道が平成22年度から実施している「循環資源利用促進特定課題研究開発事業」として、北海道循環利用促進税の一部を研究資金とした建設混合廃棄物のリサイクル推進に関わる調査を行っています。

本調査では、建設混合廃棄物処理の実態を調査し、リサイクルにおける課題を明らかにするため、建設・解体現場で発生してから中間処理場での減容化・再資源化を経て、最終処分場で埋め立てられるまでの流れを manifests などの各種資料、現地調査やアンケートなどを基に分析しています。

その結果、建設・解体現場での分別、中間処理施設における選別工程や廃棄物のリサイクル先などについて、いくつかの課題が見えてきました。

また、これまでの調査から得たデータをもとに、全道に数カ所の処理拠点を設定しシミュレーションをした結果、最終処分率を40%程度まで削減できるという結果が得られました。

今後は、循環型社会の形成促進に資するデータとして、発生・処理の各段階に対して改善方法を示し、技術的な提案を行う予定です。

2月10日には札幌で循環型社会に関するオープンフォーラムも開催されますので、お時間のある方は是非ご来場ください。

(構法材料G 宮内)

=====
最近の研究所の動き
=====

■【四半期業務報告】

平成26年10～12月の受付件数

□依頼試験 (担当：性能評価課)

依頼試験 14件 (累計 81件)

設備使用 2件 (累計 21件)

□施設見学 (担当：企画課)

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。